

郷土そば探訪の旅、パート2

信州そば発祥の地、伊那市を訪ねて。

相原 喜代治

(江戸ソバリエ十期)

郷土そばの食べ歩きを兼ね、信州そば発祥の地、長野県伊那市に郷土そば探訪の旅に行ってきました、

自宅から4時間のドライブの末、伊那市高遠に昼前に到着、高遠城址見学の後、高遠歴史博物館の学芸員の方に高遠藩主であった保科正之公の山形への移封のルートなどをお聞きしたが文献などは残っていないなどの事で収穫は無かった。

その後信州そば切りの会会長のそば店にお邪魔し島根県横田小そば十割を辛み大根の絞り汁と焼き味噌、刻みネギで頂く高遠そばと、追加でご当地そばの入野谷在来十割も頂きました、どちらも粗挽き、田舎風の色濃い麺で粘りのあるもちもちした食感、香りも高く太麺で噛んで食べると旨味が口腔内を広がり今まで食べたことがない美味しい蕎麦でした。

翌日は伊那そば振興会会長に会い伊那、高遠地方のそばの打ち方、会津の高遠そばとの関係、保科正之公とそばとの関わりなど取材させて頂く予定になっている、



高遠城址図、勘助曲輪



島根県横田小そば十割



入野谷在来十割

高遠そば

◎行者そば発祥の地

市西部の新井内の萱地区には、奈良時代に山岳信仰で訪れた行者が村人のもてなしのお礼として一握りのソバの実を贈り栽培方法を教えた、と言い伝えがある、地区には『行者そば発祥の地』と刻まれた石碑が立ち、秋には『行者そば祭り』が行われている。



行者そば発祥の地



石碑

◎長い間冬眠していた在来種、

2014年、長野県野菜花卉試験場に保管されていた在来種の種を発見、この長谷浦在来種は現在の入野谷在来そばとして3段階の工程を踏んで出荷されている。

- 1.原種圃場は長谷・浦の隔離圃場。
- 2.原種(種取)圃場は浦の麓の長谷・杉島の圃場。
- 3.出荷用の圃場は入野谷郷の圃場。

と三ヶ所で厳重に管理生産されている、

これらの栽培指針が評価されて第33回全国優良生産者表彰で農林水産大臣賞を受賞された、交雑されやすいそばは純血を守る為『ここまでやるの』と感心させられる。

◎今度の旅の目的の一つは1637年保科正之公が山形へ移封(国替え)の際、どのルートでお国入りしたか、である。

私なりに仮説をたててみた、

①高遠、諏訪から別れ、沼田、檜枝岐、喜多方、米沢、南陽市で②のルートと合流ルート

②高遠、上田、小布施、十日町、長岡、新発田、南陽市、上山、山形のルート

③高遠、千曲、長野、信濃町、妙高、柏崎、出雲崎、②ルートの加賀野で合流する海沿いのルート。

①ルートは山岳地帯を通る他、宿場と宿場の距離が長いと無理だと判断、また、大勢の家臣と一族郎党、そして職人の他、家臣の家族女子供を危険にさらすなど考えにくい、

②ルートは比較的平坦で藩が点在し將軍の弟と知れ渡っている高貴なお方、我が藩を通過すると知ったら便宜をはかるは当然、これらの観点から比較的楽な②を仮説ルートとした、因みにどのルートも距離は450km前後である。

添付資料1、参照。

◎日本古来から行われているそば打ち手法は全て丸延しである、

長野県戸隠(一本棒丸延し8枚たたみ)、新潟県十日町(丸延し6枚たたみ)、山形県大石田、寒河江(丸延し)、福島県会津地方(山都、宮古、磐梯、檜枝岐)丸延し1枚又は多重重ね、耳切り、手駒、裁ち切り等各種手法あり。

以上の戸隠、十日町、山形、会津の4地点と保科正之公の出発地点を加えた5地点を仮説ルートに重ね合わせると点が国替えルートの線で繋がるのである、この事は国替えルートが仮説ではなく定説と言っても過言ではない。

高遠芝平地区では丸延しに加え会津の磐梯山麓のそば打ち手法、湯ごね、水ごね、耳切りは昔から行われていた、と伺った、

これらが事実ならばそば打ち手法だけでなく各地にそばも玄そばで持ち込んだはずである、

長谷浦在来種と戸隠、十日町、山形、会津地方の在来種のDNAを調査すれば長谷浦在来種の遺伝子が見つかるかも知れない、

一致すれば長谷浦在来種が山形、会津地方へある年代に持ち込まれた証明になる。

その逆は歴史的な観点から有り得ない。

◎豪雨災害で移住を余儀なくされた高遠の奥地、芝平地区では焼き物で作られた兜鉢（かぶとばち）を利用し、7割のそば粉と熱湯、そして少々の塩で殆ど揉み込みでそば玉を作り、丸延しでは周囲が割れる為、その対策としてひび割れた丸の周囲を切り取り生地中央に打ち込む手法が行われていたとの事、会津の磐梯山の麓では現在も（すみきり、耳切り）手法で丸延しが行われています。

その他駒板を使わず手駒で切っていたと伺ったが檜枝岐村でも昔から手駒で切っていました。

そば打ち手法も保科正之公の移封ルートで会津に伝播された、その会津地方でもそば打ち手法の違いが見られるのは職人が複数であったため、長い年月でそば打ち手法も進化したからではないか、と推測される。

今回の旅は仮説が定説に近くなった部分、ロマンが益々膨らんだ部分色々であり有意義な旅でした。

この度の取材にご協力頂いた、伊奈そば振興会会長の飯島進様、飯島様をご紹介頂いた信濃毎日記者、関誠様に感謝申し上げます、有り難うございました。



松本、投げそば



戸隠、丸延し一本棒



新潟県十日町へぎそば、丸延し6枚たたみ

高遠藩主、保科正之公が高遠から山形そして会津に転封の際のルート

